

令和5年10月4日（水）御影地区、5日（木）清水地区「運営委員会」開催

今年度の振り返し、今後へ向けて

令和2年度に準備会を立ち上げ、令和3年度から徐々に準備が始まって3年目を迎える小中一貫教育。今年は新型コロナウイルス感染症の対応が変わり、話し合いも少しずつ活性化してきたのではないかと思います。

4月に全体での「推進協議会」を終え、その後は清水地区と御影地区に分かれての「推進委員会」を重ねてきました。スムーズな話し合いの場面や激論を重ねてきたこととします。半年経った今、振り返って成果や今後の取組を確かめ、さらに十勝教育局から担当指導主事をお招きし、アドバイスを頂く「運営委員会」を地区ごとに開催しました。

10月4日（水）御影地区「運営委員会」15：00～御影中学校にて

「本年度の重点」や「めざす15歳の子ども像」を確認のあと、具体的な話となり、切り口として「十勝清水学」に取り組んでいるのが良いとの話がありました。9年間を見通して「自然」「歴史」「産業・施設」「人」の4つに分類して整理された教育課程は、小学1年生から中学3年生までの繋がりが見えるものかと思います。2学期中には小中で一覧表を配布していくとのことでした。深谷市や台湾との交流も取り込み、地域への愛着が深まる一つです。

「学習規律」の小中共有と各教室へ掲示するなど、つながりのある教育活動を通して、基礎学力・体力の定着や自らの夢や目標の実現に向けてたくましく歩む力、温もりと潤いのある環境の中で、思いやりをもち、豊かな感性を身に付けた人となる基盤をつくる目的に向かう歩みを感じられました。

最後の質疑では「分離型での教科担任制にはどんな例があるのか」

「施設分離型で乗り入れ授業をするのに具体策は？」

「研修テーマの設定は小中でどのように歩みを合わせたらよいのか」という質問に、「十勝管内の例」や「どこまでやるのかを町教育委員会が示すのか、学校現場で検討して進めていくのか」「まずテーマを揃えてみては」というアドバイスを頂きました。

御影小学校
(町教委職員書き下ろし)



「きょういく・イッカン」7号

10月5日（木）清水地区「運営委員会」15：00～清水中学校にて

前頁の御影地区同様、清水地区もまず初めに全体の進捗状況・成果や課題を事務局から、詳細の具体的なところは「学習部」「研修部」「生活部」の部長さんから話して頂き、全体で確認したあとに、協議に移る形で進めました。

母体大きい（教職員の人数や児童数）こともあり、9年間を通して「どんな力を」「どうなってほしいのか、目指す子ども像など目的をしっかりと押さえて」というアドバイスがありました。全体で確認しながら歩いていくことが大切ということと捉えています。既に登ってきているのですから小中の垣根を超え、認識・指導等を共通理解のもとに進めていくことが肝要です。

各部での話し合いの場面では、小中の交流の中で学校文化（小学校は学級担任制・中学校は教科担任制が主）の違いを超えて、子どもたちのために指導の歩調をある程度揃える必要性（中1ギャップの解消など）もあるのかと思います。小学校高学年での教科担任制の一層の導入や校内教員間での授業交換も一つの歩みとなります。

最後に山下教育長から①歩みを進めて頂いていることへの感謝、②うまくいかない部分があったとしてもしっかりと話し合い、③つながって進むことが必ず児童生徒や教職員にもプラスになる、④今までのままでよいのか見直すことも考えていこう（例：1年中5時間授業にできないか）との話がありました。

令和7年度から本格実施の予定ですが、できるところから進めている現在です。



運営委員会（清水地区）のようす



農業うっちゃん

「清水ならではの教育」の推進・継続・発展を

発行：清水町小中一貫教育推進協議会